Solution Overview: QUNIE Sustainable Procurement Solution

調達サスティナビリティ強化支援

何故、調達サスティナビリティへの取組みが必要なのか

■ 近年、戦略的サプライヤが重要視されている中で、調達サステナビリティも含めた業務改革が必要となっている
■ 調達サステナビリティ領域におけるサプライヤとの取組みは進んでおらず、今後は調達サステナビリティ領域におけるサプライヤとの関係強化と調達サステナビリティ情報を管理するための仕組みづくりが求められる

情報管理に関する悩み

- ✓ 調達サステナビリティに関して、**管理すべき情報が年々増加している**
- ✓ サプライヤにヒアリングしながら**アナログでサステナビリティ情報収集をしており非効率**
- ✓ 外部からの**情報開示要求に労力が掛かる**
- ✓ 情報収集ツールはあるものの、断片的にしか使用されておらず、**情報が散在している**
- ✓ 情報管理は担当者任せになっており、情報が散在しているほか、**業務が属人化**している

サプライヤとの協業に関する悩み

- ✓ サプライヤと調達サステナビリティに関する**情報共有ができていない**
- ✓ サプライヤへの要請やサステナビリティに関する**情報開示に協力してもらえない**
- ✓ 調達サステナビリティに関する**取組みに協力してもらえない**

調達サステナビリティ情報を管理するための仕組みづくり

- **✓サプライヤ情報の一元管理**
- **✓サプライヤへのヒアリング、アンケートの簡略化**
- **✓調達システムやBCPシステムとの連携**
- **✓外部機関DBとの連携**

調達サステナビリティ領域におけるサプライヤとの関係強化

- **✓重点サプライヤとの「パーパス・戦略」の共有**
- **✓「一方的コミュニケーション」から「双方向のコミュニケション」への移行**
- **✓「パーパス・戦略」に基づく取組みの実行**

調達サスティナビリティにおける現状と目指す姿

■ 情報管理をアナログからデジタルへ、サプライヤとのコミュニケーションを一方的なものから双方向へ、それぞれ変化させることが必要である

調達サステナビリティ情報を管理するための仕組みづくり

AsIs

アナログで属人的な情報管理
- サプライヤからの情報収集方法がバラバラ
- 管理する情報の種類により収集方法が異なる
- 各人が情報管理しており情報が散在している
- 各人に業務が属人化している
- 収集した情報が最新の状態になっていない

ToBe

デジタルな情報一元管理
- 複数の種類の情報が一つのPFに一元管理されており、複数のメンバーが情報にアクセスできる
- 最新の情報を検索・収集できる
- バイヤ・サプライヤの双方がコミュニーションできる環境

調達サステナビリティ領域におけるサプライヤとの関係強化

AsIs

一方的なコミュニケーション
- 売買のみの関係
- 調達サステナビリティにおける一方的な依頼になっておる
- 一方的な情報収集のみ実施している

ToBe

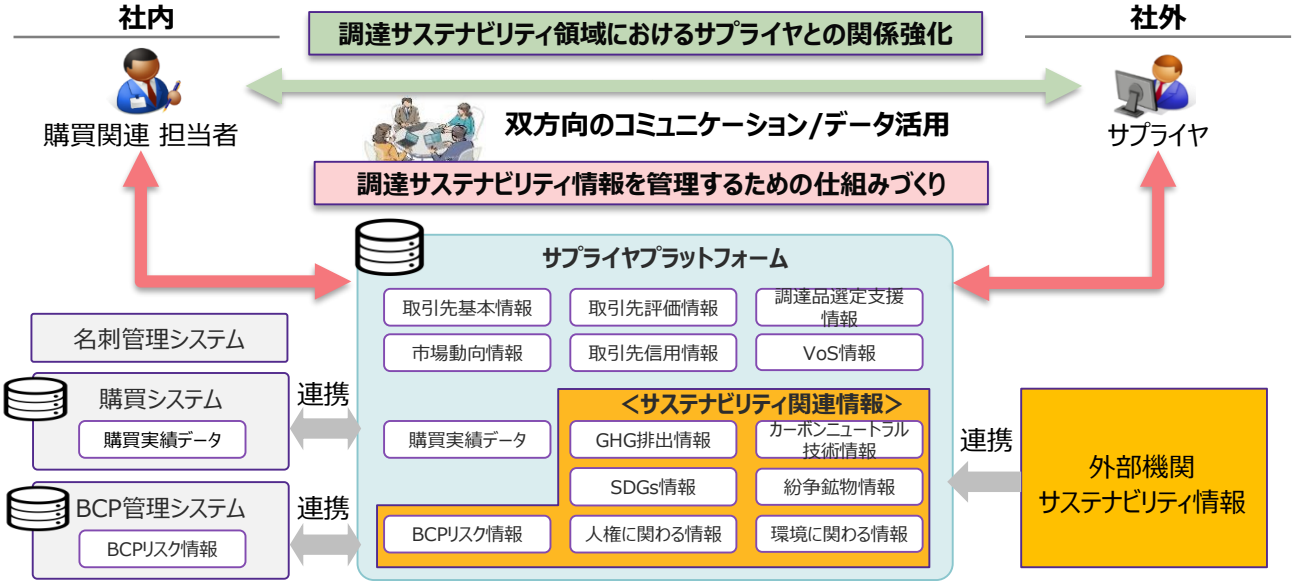
双方向のコミュニケーション
- 調達サステナビリティにおけるパーパス・戦略が共有できる
- Top to Topの関係構築ができる
- 戦略に基づく調達サステナビリティ推進、技術提供、設備投資等が実施できる

- サステナビリティデータの使用目的が定義されており、データを活用した取組みが実施できている

© 2024 QUNIE CORPORATION

情報一元管理の仕組みづくり

- サプライヤ情報、他システム情報、外部情報などをサプライヤプラットフォームで一元管理
- サプライヤとのパーパス・戦略を共有した上で、データを活用した具体的な施策を実行



QUNIEが提唱する「調達サスティナビリティ」Step

- QUNIEでは豊富なプロジェクト経験をもとに、貴社の調達サスティナビリティの現状を把握した上で仕組みづくりを実施し、早期に調達サスティナビリティの課題解決を推進します

	調達サステナビリティ情報を管理するための仕組みづくり	調達サステナビリティ領域におけるサプライヤとの関係強化
Step0	• 管理すべきサステナビリティ情報が定義されていない • サプライヤからの情報収集方法はメールベタ打ちやファイル添付、システム入力など多種多様 • 情報の種類により情報管理方法が異なり、情報の検索性が悪い • 各自がそれぞれ情報収集を行っておりデータが可視化されていない	• 管理すべきサステナビリティ情報が定義されていない • サプライヤとの関係性は売り買い主体 • バイヤ本位の一方的なコミュニケーション • 担当者間において良好な関係にあるが、戦略的関係ではない
Step1	• 管理すべきサステナビリティ情報が定義されている • サプライヤからの情報収集においては、双方が情報交換を行えるツールを部分的に活用しており、情報収集が効率化されている • 社内で統一された情報管理フォーマットを活用し、各種情報は社内で可視化された状態になっている	• 管理すべきサステナビリティ情報が定義されている • サプライヤ営業部署とのパーパス・戦略共有ができている • サステナビリティ情報の開示要求に対する承諾が獲得できている
Step2	• 異なる種類のサプライヤ情報を一元的に管理するためのプラットフォームが構築されており、サプライヤ情報を一元管理できている • 調達部署以外の組織間でも情報連携ができている	• サプライヤTopとパーパス・戦略の共有ができている • 定期的なTop To Top戦略会議が開催されている • パーパス・戦略に基づく一部取組みが実施されている
Step3	• サプライヤ情報を一元管理するためのプラットフォームの構築に加え、購買システム、BCP管理システム、外部機関情報など、他システムとの連携ができている • 収集した情報をサステナビリティの取組みに活用できている	• 取組み推進プロジェクトが立ち上げられ、バイヤ・サプライヤの複数組織を跨いで戦略に基づき計画的に施策実行が行われている • サプライヤへ技術提供や労働環境の改善、設備投資などのパーパスを達成するために必要な支援を行っている • 収集した情報をサステナビリティの取組みに活用できている

株式会社 クニエ

〒100-8101 東京都千代田区大手町2-3-2 大手町プレイス イーストタワー11F
TEL: 03(3517)2292 FAX: 03(3517)2293
URL: https://www.qunie.com

NTT DATA Trusted Global Innovator NTT DATA Group

© 2024 QUNIE CORPORATION